

鹿児島湾初記録のキンセンイシモチ

大井真人¹・長谷川雄大¹・本村浩之²

¹〒890-0056 鹿児島市下荒田4-50-20 鹿児島大学水産学部

²〒890-0065 鹿児島市郡元1-21-30 鹿児島大学総合研究博物館

はじめに

テンジクダイ科魚類 Apogonidae は日本近海から 26 属 107 種が知られており、そのうち内包される種数が最も多いスジイシモチ属 *Ostorhinchus* Lacepède, 1802 にはキンセンイシモチ *Ostorhinchus wassinki* (Bleeker, 1860) を含めた 30 種が知られている（馬渕ほか, 2015; 本村, 2026）。

2006 年 9 月から 2026 年 1 月にかけて鹿児島湾から計 13 個体のキンセンイシモチが得られた。本種はこれまでに三浦半島から和歌山県、日向灘、奄美群島、八重山諸島にかけての南日本から記録されているが (Aoyagi, 1943; Iwatsuki et al., 2017; 工藤ほか, 2019; 福田・小寺, 2019; 吉田, 2018)，鹿児島湾からの記録はなかった。これらの標本は鹿児島湾初記録となるためここに報告する。

材料と方法

標本の作製、登録、撮影、および固定方法は本村 (2009) にしたがった。計測はデジタルノギスを用いて 0.1 mm 単位までおこなった。標準体長 (standard length) は体長または SL と表記した。本研究に用いた標本は鹿児島大学総合研究博物館 (KAUM) に保管されており、生鮮時の写真は同館のデータベースに登録されている。

結果と考察

Ostorhinchus wassinki (Bleeker, 1860)

キンセンイシモチ (Fig. 1)

標本 13 個体 (体長 32.7–56.7 mm, 鹿児島湾): KAUM-I. 763, 体長 47.8 mm, 肝属郡南大隅町佐多の伊座敷港沖北 1 km, 水深 30–40 m, 2006 年 9 月 25 日, 築地新光子; KAUM-I. 138714, 体長 53.1 mm, 鹿児島市鴨池鴨池港, 水深 10 m, 2019 年 12 月 18 日, 中村潤平・上城拓也・福地伊美映; KAUM-I. 139087, 体長 56.7 mm, 鹿児島市鴨池鴨池港, 水深 5–8 m, 2018 年 12 月 31 日, 古橋龍星; KAUM-I. 144179, 体長 50.3 mm, 鹿児島市古里町宮下港 (第 4 避難港), 水深 20–30 m, 2020 年 7 月 13 日, 上野大輔・上野浩子・松岡 翠・Kunto Wibowo・藤原恭司; KAUM-I. 145647, 体長 42.6 mm, 鹿児島市沖小島南方, 水深 20–30 m, 2020 年 8 月 19 日, 上野大輔・松岡 翠・Kunto Wibowo・藤原恭司・中川龍一; KAUM-I. 146006, 体長 51.7 mm, 鹿児島市沖小島南方, 水深 20–30 m, 2020 年 9 月 9 日, 上野大輔・松岡 翠・Kunto Wibowo・藤原恭司・中川龍一; KAUM-I. 149893, 体長 50.3 mm, 鹿児島市桜島古里町古里港 (避難港 6 番), 水深 10–30 m, 2021 年 2 月 2 日, 松岡 翠・Kunto Wibowo・藤原恭司・中川龍一; KAUM-I. 155769, 体長 55.1 mm, KAUM-I. 155770, 体長 44.8 mm, KAUM-I. 155771, 体長 33.4 mm, 鹿児島市沖小島南方, 水深 10–30 m, 2021 年 3 月 30 日, 松岡 翠・藤原恭司・中川龍一・出羽優凪・飯野友香; KAUM-I. 199651, 体長 53.6 mm, 鹿児島市鴨池鴨池港, 水深 5 m, 2024 年 7 月 3 日, 吉田卓史; KAUM-I. 200879, 体長 41.3 mm, 指宿市知林ヶ島西側, 水深 3 m, 2025 年 11 月 5 日, 岩坪

Oi, M., Y. Hasegawa & H. Motomura. 2026. First record of *Ostorhinchus wassinki* (Bleeker, 1860) (Apogonidae) from Kagoshima Bay, southern Kyushu, Japan. *Nature of Kagoshima* 52: 185–188.

✉ MO: Faculty of Fisheries, Kagoshima University, 4-50-20 Shimoarata, Kagoshima 890-0056, Japan (e-mail: masato2580@hotmai.com).

Received: 26 January 2026; published online: 29 January 2026; https://journal.kagoshima-nature.org/archives/NK_052/052-047.pdf



Fig 1. Fresh specimen of *Ostorhinchus wassinki* from Kagoshima Bay, southern Kyushu, Japan (KAUM-I. 144179, 50.3 mm SL).

洸樹; KAUM-I. 221390, 体長 32.7 mm, 指宿市知林ヶ島西側, 水深 3 m, 2025 年 11 月 5 日, 佐藤智水・久保田雄斗・畠中柚菜; KAUM-I. 222752, 体長 54.5 mm, 鹿児島市鴨池鴨池港, 水深 5 m, 2026 年 1 月 19 日, 長谷川雄大・鹿島隆翔.

同定 本研究に使用した 13 標本は吻部に丸みがあること、体側に 5 本の橙黄色縦帯をもつこと、第 2 縦帯が鰓蓋基部を越えること、体側縦帯の第 3, 4 縦帯が第 1, 2, 5 縦帯よりも幅広いこと、第 4 縦帯と第 5 縦帯に挟まる前方の淡青色縦帯が連続した帶状であること、第 4 縦帯が尾柄の後端で終わることが林 (2013) の示したキンセンイシモチの特徴に合致したため、本種に同定された。

キンセンイシモチは日本産の同属であるスジオテンジクダイ *Ostorhinchus holotaenia* (Regan, 1905) によく似るが、本種は第 4 縦帯と第 5 縦帯に挟まる前方の淡青色縦帯が連続した帶状であること (スジオテンジクダイは斑状で不連続)、第 4 縦帯が尾柄の後端で終わること (尾叉付近まで伸長する) から識別される (Yoshida et al., 2010; 林, 2013)。

分布 日本国内ではこれまでに三浦半島、相模湾、三重県、和歌山県串本、徳島県大島、高知県、日向灘、甑島列島、鹿児島県薩摩半島、宇治

群島、大隅諸島（黒島・竹島・硫黄島）、種子島、口永良部島、屋久島、奄美群島（奄美大島・加計呂麻島・喜界島・徳之島・沖永良部島）、小笠原諸島（兄島・父島）、沖縄諸島（沖縄島、伊江島）、慶良間諸島、宮古諸島（宮古島・伊良部島）、八重山諸島（石垣島・西表島）から記録されている (Aoyagi, 1943; 藍沢・瀬能, 1991; 林, 1996; Mabuchi et al., 2003; 吉郷・中村, 2006; 吉郷ほか, 2007; Senou et al., 2006, 2007; Yoshida et al., 2010; 本村ほか, 2013; 佐々木ほか, 2014; 岩坪ほか, 2014; Motomura et al., 2015; Motomura and Harazaki, 2017; Iwatsuki et al., 2017; 木村ほか, 2017; Nakae et al., 2018; Mochida and Motomura, 2018; 吉田, 2018; 工藤ほか, 2019; 吉田ほか, 2019; 福田・小寺, 2019; Motomura and Uehara, 2020; Inoue et al., 2020; Fujiwara and Motomura, 2020; 下瀬, 2021; Jeong and Motomura, 2021; 萩原, 2022; 本田ほか, 2024; 橘ほか, 2024; Koreeda and Motomura, 2025; 笹木, 2025)。本研究により新たに鹿児島湾から記録された (Fig. 2)。なお、本種は *Ostorhinchus cyanosoma* (Bleeker 1853)、スジオテンジクダイ、およびアカホシキンセンイシモチ *Ostorhinchus rubrimacula* (Randall and Kulbicki 1998) と混同されてきた歴史があるため、この 3 種が明確に区別さ

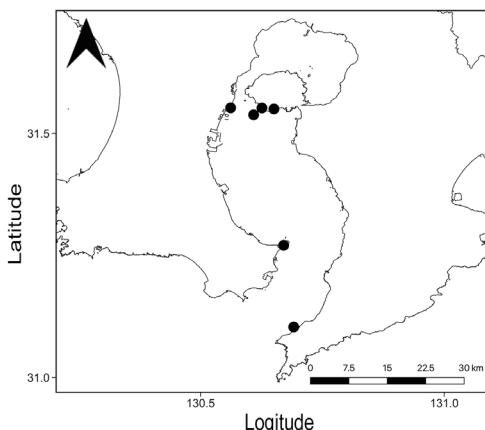


Fig. 2. Collection sites of *Ostorhinchus wassinki* in Kagoshima Bay, southern Kyushu, Japan.

れる前の記録は分布に含めなかったが、Yoshida et al. (2010) でキンセンイシモチ (*Apogon cf properuptus, lined type* として) に同定された藍沢・瀬能 (1991) の *Apogon cyanosoma* (Bleeker 1853), 林 (2013) で本種に同定された Aoyagi (1943) の *A. cyanosoma* は本種の分布に含めた。

備考 キンセンイシモチの分布は「分布」の項に示した通りであり、鹿児島県本土における本種の記録は薩摩半島沿岸に限られていた。今回鹿児島湾から得られた標本は鹿児島湾初記録である。本種は鹿児島湾の広範囲 (Fig. 2) から継続的に得られていることから、偶発的な出現ではなく、鹿児島湾に定着していると考えられる。Yoshida et al. (2010) は屋久島においてキンセンイシモチ (*Apogon cf properuptus, lined type* として) は 25 m 以浅から、スジオテンジクダイ (*A. cf properuptus, dotted type* として) は 25 m 以深から得られたとし、水深による両種の棲み分けを示唆している。鹿児島湾ではスジオテンジクダイも記録されているが (岩坪・本村, 2017), キンセンイシモチは 25 m 以深からも得られている。このことから少なくとも鹿児島湾では両種が水深によって棲み分けている可能性は低いと考えられる。

謝 辞

本研究を取りまとめるにあたり、鹿児島大学

総合研究博物館魚類分類学研究室のみなさまと同館のボランティアのみなさまには標本の作製・登録・管理にご協力いただいた。鹿児島大学水産学部の鹿島隆翔氏には採集調査にご協力いただいた。同大水産学部の中村亮太氏にはキンセンイシモチの標本の所蔵についてご教授いただいた。東京大学教養学部の尾山大知氏には文献収集にご協力いただいた。上記の方々に深く感謝する。本研究は鹿児島大学総合研究博物館の「鹿児島・琉球列島の魚類多様性調査プロジェクト」の一環として行われた。本研究の一部は公益財団法人日本海事科学振興財団「海の学びミュージアムサポート」、JSPS 科研費 (20H03311・21H03651・23K20304・24K02087)，文部科学省機能強化費「世界自然遺産候補地・奄美群島におけるグローバル教育研究拠点形成」、および鹿児島大学のミッション実現戦略分事業（奄美群島を中心とした「生物と文化の多様性保全」と「地方創生」の革新的融合モデル）の援助を受けた。

引用文献

- 藍沢正宏・瀬能 宏. 1991. 徳島県牟岐町大島およびその周辺の浅海性魚類相. 徳島県立博物館研究報告, 1: 73–208.
- Aoyagi, H. 1943. Coral fishes. Part 1. Maruzen, Tokyo. 224 pp.
- Fujiwara, K. and H. Motomura. 2020. An annotated checklist of marine and freshwater fishes of Kikai Island in the Amami Islands, Kagoshima, southern Japan, with 259 new records. Bulletin of the Kagoshima University Museum, 14: 1–73.
- 福田照雄・小寺昌彦. 2019. 海中展望塔に集まる魚. 40 年間のまとめ. 串本海中公園マリンパビリオン, 8: 1–14.
- 萩原清司. 2022. 横須賀市自然・人文博物館所蔵魚類資料目録 (V) 横須賀市自然・人文博物館および相模湾海洋生物研究会収集奄美群島産魚類目録. 横須賀市博物館資料集, 46: 1–127.
- 林 公義. 1996. 日本産テンジクダイ科魚類の動物地理学的研究—奄美諸島における特性—. 横浜国立大学環境科学研究センター紀要, 22: 113–122.
- 林 公義. 2000. テンジクダイ科. Pp. 139–147, pls. 129–133. 益田 一・尼岡邦夫・荒賀忠一・上野輝彌・吉野哲夫 (編). 日本産魚類大図鑑. 第2版. 東海大学出版会. 東京.
- 林 公義. 2013. テンジクダイ科. Pp. 826–864, 1979–1986. 中坊徹次 (編). 日本産魚類検索 全種の同定. 第3版. 東海大学出版会. 東京.
- 林 公義・岸本浩和. 1983. 西表島(琉球列島)産魚類 III. テンジクダイ科 (テンジクダイ亜科). 横須賀市博物館研究報告, 31: 15–46, pls. 2–8.
- 本田康介・瀬能 宏・和田英敏. 2024. 相模湾産魚類目録 (改訂). 神奈川県立博物館研究報告 (自然科学), 53: 127–218.

- Inoue, H., A. Mizutani, K. Nanjo, K. Tsutsumi and H. Kohno. 2020. Fish assemblage structure response to seagrass bed degradation due to overgrazing by the green sea turtle *Chelonia mydas* at Iriomote Island, southern Japan. Ichthyological Research, doi: 10.1007/s10228-020-00775-1 (Sept. 2020), 68: 111–125 (Jan. 2021).
- 岩坪洗樹・加藤 紳・本村浩之. 2014. 鹿児島県南九州市頃野町番所島自然公園地先の魚類リスト. Nature of Kagoshima, 40: 81–94.
- 岩坪洗樹・本村浩之. 2017. 火山を望む魔海 鹿児島湾の魚類. 鹿児島水圈生物博物館, 鹿児島・鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 302 pp.
- Jeong, B. and H. Motomura. 2021. An annotated checklist of marine and freshwater fishes of five islands of Mishima in the Osumi Islands, Kagoshima, southern Japan, with 109 new records. Bulletin of the Kagoshima University Museum, 16: 1–116.
- 木村祐貴・日比野友亮・三木涼平・峯苦 健・小枝圭太 (編). 2017. 緑の火山島 口永良部島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 200 pp.
- Koreeda, R. and H. Motomura. 2025. An annotated checklist of marine and freshwater fishes of the Koshiki Islands and adjacent waters, Kagoshima, southern Japan, with 353 new records. Bulletin of the Kagoshima University Museum, 21: 1–119.
- 工藤孝浩・山田和彦・瀬能 宏. 2019. 三浦半島南西部沿岸の魚類—IX. 神奈川自然誌資料, 40: 49–58.
- 馬渕浩司・林 公義・Fraser, T. H. 2015. テンジクダイ科の新分類群体系に基づく亜科・族・属の標準名の提唱. 魚類学雑誌, 62: 29–49.
- Mabuchi, K., N. Okuda, T. Kokita and M. Nishida. 2003. Genetic comparison of two color-morphs of *Apogon properuptus* from southern Japan. Ichthyological Research, 50: 293–296.
- Mochida, I. and H. Motomura. 2018. An annotated checklist of marine and freshwater fishes of Tokunoshima island in the Amami Islands, Kagoshima, southern Japan, with 214 new records. Bulletin of the Kagoshima University Museum, 10: 1–80.
- 本村浩之. 2009. 魚類標本の作製と管理マニュアル. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 70 pp.
- Motomura, H. 2023. An annotated checklist of marine and freshwater fishes from Tanega-shima and Mage-shima islands in the Osumi Islands, Kagoshima, southern Japan, with 536 new records. Bulletin of the Kagoshima University Museum, 20: 1–250.
- 本村浩之. 2026. 日本産魚類全種目録. これまでに記録された日本産魚類全種の現在の標準名と学名. Online ver. 36. (<https://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/staff/motomura/jaf.html>; 2026年1月20日参照)
- Motomura, H., A. Habano, Y. Arita, M. Matsuoka, K. Furuta, K. Koeda, T. Yoshida, Y. Hibino, B. Jeong, S. Tashiro, H. Hata, Y. Fukui, K. Eguchi, T. Inaba, T. Uejo, A. Yoshiura, Y. Ando, Y. Haraguchi, H. Senou and K. Kuriwa. 2015. The ichthyofauna of the Uji Islands, East China Sea: 148 new records of fishes with notes on biogeographical implications. Memoirs of Faculty of Fisheries Kagoshima University, 64: 10–34.
- Motomura, H. and S. Harazaki. 2017. Annotated checklist of marine and freshwater fishes of Yaku-shima island in the Osumi Islands, Kagoshima, southern Japan, with 129 new records. Bulletin of the Kagoshima University Museum, 9: 1–183.
- Motomura, H. and K. Uehara. 2020. An annotated checklist of marine and freshwater fishes of Okinoerabu Island in the Amami Islands, Kagoshima, southern Japan, with 361 new records. Bulletin of the Kagoshima University Museum, 12: 1–125.
- 笹木大地. 2025. キンセンイシモチ. P. 148. 木村清志・笹木大地 (編). 美し国魚たち: 三重県の魚類図鑑. 木村清志, 伊勢.
- Senou, H., Y. Kobayashi and N. Kobayashi. 2007. Coastal fishes of the Miyako Group, the Ryukyu Islands, Japan. Bulletin of the Kanagawa Prefectural Museum (Natural Science), 36: 47–74.
- Senou, H., H. Kodato, T. Nomura and K. Yunokawa. 2006. Coastal fishes of Ie-jima Island, the Ryukyu Islands, Okinawa, Japan. Bulletin of the Kanagawa Prefectural Museum (Natural Science), 35: 67–92.
- 下瀬 環. 2021. 沖縄さかな図鑑, 沖縄タイムス社, 那覇. 208 pp.
- 橋 皆希・岡村恭平・松永 翼 遠藤広光. 2024. 高知県から得られたテンジクダイ科魚類10種. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 48: 55–63.
- 吉田朋弘. 2018. テンジクダイ科. Pp. 113–142. 本村浩之・萩原清司・瀬能 宏・中江雅典 (編). 奄美群島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島, 横須賀市自然・人文博物館, 横須賀, 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原, 国立科学博物館, つくば.
- Yoshida, T., S. Harazaki and H. Motomura. 2010. Apogonid fishes (Teleostei: Perciformes) of Yaku-shima Island, Kagoshima Prefecture, southern Japan. Pp. 27–64. In Motomura, H. and K. Matsuura (eds.). Fishes of Yaku-shima Island – A World Heritage island in the Osumi Group, Kagoshima Prefecture, southern Japan. National Museum of Nature and Science, Tokyo.
- 吉田朋弘・高山真由美・本村浩之. 2019. 種子島から得られたコンゴウテンジクダイおよびスジイシモチ属魚類8種の標本に基づく記録. Nature of Kagoshima, 46: 163–166.
- 吉郷英範・市川真幸・中村慎吾. 2005. 比和町立自然科学博物館魚類収蔵標本目録(IV). 比和町立自然科学博物館標本資料報告, 5: 1–51.
- 吉郷英範・中村慎吾. 2003. 比和町立自然科学博物館魚類収蔵標本目録(III). 比和町立自然科学博物館標本資料報告, 4: 31–75, pl. 1.